

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
[生活習慣の確立] 生活習慣の確立ができておらず、学習に対する目的意識が低い生徒が多い。	(全体レベル) 全教職員の共通理解のもと、家庭・専門機関などとの連携を密にして、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。  (下位組織レベル) ①いじめの早期発見・対応 [生徒指導課] ②交通安全教育の徹底 [生徒指導課] ③欠席者の減少 [教務課] ④生活習慣の確立 [保健厚生課] ⑤実践力を育む人権教育 [人権教育課]	<b>評価指標</b> ①-1 挨拶実施率 80% ①-2 個人面談の実施回数 3回 ②-1 通学使用車両点検 3回 ②-2 交通事故(加害者)発件数 0件 ③-1 出席率 90% ③-2 生徒の授業中での充実度 80% ③-3 要補講生徒数の減少 30% ④ 肥満度50%以上の生徒数割合 8% ⑤ 人権教育研修会の実施 12回	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 80% ①-2 3回 ②-1 通学使用車両点検を年に3回実施した。 ②-2 交通事故(加害者)は発生しなかった。 ③-1 93.4% ③-2 「とても」と「まあまあ」合わせて 94.3% ③-3 要補講生徒数の割合 18% ④ 4月14.6%、10月13.3%で低下したが依然高い。 ⑤ 12回実施	総合評価 (評定) B  (所見) 出席率の向上、生徒の授業中での充実度の向上、さらには要補講生徒数の減少と学校へ前向きに登校できている生徒数が増加した。しかし、数値的には改善傾向にあるものの、生徒の実態を昨年と照らし合わせて見ると、本校の取り組みが効果を上げているのか、生徒の入れ替わりより比較的まじめな生徒が増加したのか、判断に迷うところがある。数値的にも感覚的にも改善が分かるような評価方法を考える必要がある。	重点目標及び評価指標はおおむね達成できている点は評価できる。また、生徒の出席率、授業中での充実度、要補講生徒数の減少については、目標を大きく上回っている点については、非常に評価できる。どのような具体策を講じて数値が好転したのか、その要因を見極め、よりよい学校づくりへ次年度も取り組んで頂きたい。肥満度50%以上の生徒数割合については、学校としてできることは限られているかも知れないが、目標が達成できるように引き続き取り組んでほしい。	今年度は概ね良好な評価であった。しかし、所見の中でも少し触れたように、出席率及び要補講生徒数は昨年度より大幅に改善したものの、生徒の特性による部分が多いように思われる。昨年度の4年生は、出席状況が悪く、在籍生徒の3分の2以上が、補講を抱えた状況であったが、今年度の新入生は、補講を持つ者が5分の1以下であり、出席状況も良好であるため、4年生と1年生の入れ替わりが、数値を良くさせた1番の要因である。
		<b>活動計画</b> ① 挨拶や面談を通じて、生徒との信頼関係を構築し、相談に乗りやすい体制を構築する。 ②-1 原付や乗用車などの通学使用車両の点検を行い、整備不良車、違法改造車の使用を禁止する。 ②-2 学校周辺の巡視を徹底する。 ③-1 欠課時数が基準を超えた時の補講を徹底する。 ③-2 魅力ある授業づくりを実践し、出席率の向上につなげる。 ④ 生活習慣改善プロジェクトを実施する。 ⑤ 毎月、教員対象の人権教育研修会を実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 いじめ問題は発生しなかった。連絡会等でも、職員内で生徒の情報共有を図った。 ②-1 原付・自動車の通学許可願の提出を徹底させ、必要に応じて整備不良箇所の整備や修理の指導を実施した。 ②-2 始業前に学校周辺の巡視と、校門で、適宜交通マナー指導を実施した。 ③-1 要補講となった生徒全員が期間内に補講を完了し、進級する事ができた。 ③-2 出席率は前年比+3.8と大きく向上した。 ④ 生活習慣改善プロジェクトの一環で、夏季休業に加え、冬季休業に健康力アップ作戦を実施した。 ⑤ 人権教育研修会を毎月実施した。また、教職員対象の人権教育講演会も実施した。			
[進路意識の醸成] 進路に対する意識が希薄な生徒が多く、多様な生徒に即した進路指導と関係機関との連携・協力が必要である。	(全体レベル) (i) 生徒に卒業後の目標を持たせ、生徒の基礎学力を定着させるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。 (ii) 定時制単独の求人を獲得するとともに、キャリア教育を推進する。  (下位組織レベル) ①個性・能力の伸張と適切な進路サポート [進路指導課] ②進路情報の収集と確実な伝達 [進路指導課] ③総合的な学習の時間の中で、キャリア教育を実施 [進路指導課] ④学習意欲の喚起と基礎学力の定着 [教務課] ⑤HPを通じて、学校の情報を発信 [情報課]	<b>評価指標</b> ① 校内進路説明会実施回数 3回 ② 求人情報収集 90% ④-1 教師の授業が分かりやすいという生徒 90% ④-2 基礎学力コンペの全学年平均点 60点 ⑤ 各学校行事の広報活動 2日以内	<b>評価指標の達成度</b> ① 3回実施 ② 100% ④-1 98.2% ④-2 62.8点 ⑤ 1ヶ月以上	(評定) B  (所見) 当初に立てた計画は概ね達成できた。特に、進路指導に関しては、生徒に様々な体験を通して職業観を身に付けさせることができた。また、進学・就職いずれにしても必要な基礎学力においても、実施方法・評価方法の変更により昨年度よりも平均が上昇するとともに、表彰者も増加し、生徒の学習への動機けには効果が出ているように思われる。	世の中には様々な職業や職種が存在するが、生徒にとっては自分の生活と関連のある職業しか知らない傾向が強いなか、生徒の職業観や卒業後のキャリア形成に向けて、様々な取り組みがなされている点は評価できる。鉄筋施行体験なども、おそらくほとんどの生徒が初めての体験であり、世の中には生徒自身に付けさせることができた点で有意義であったと思われる。また、進学・就職にかかわらず、生徒自身の進路を決定するにあたり、基礎学力は非常に重要である。次年度も引き続き生徒の基礎学力向上に向けて取り組んで欲しい。	生徒の進路実現に向けて、進路指導課が中心となり進路ガイダンスや職業体験などを実施する事により、生徒自身に進路意識や職業観などを身に付けさせることができた。次年度も引き続き多様な体験を通じて、生徒の進路意識の醸成に努めていきたい。また、今年度は、基礎学力コンペの表彰方法を変更し、昨年よりも多くの生徒(22名/45名)が表彰の対象となり、表彰方法の変更が功を奏したと思われる。しかし、上記項目でも指摘したように、平均点上昇や表彰者の増加は、生徒の入れ替わりによる点が一因である以上、前年と比較する場合、単純比較ではなく、より効果が測定できるような評価方法を
		<b>活動計画</b> ①-1 校内説明会を計画的に実施する。 ①-2 個別に進路相談、ガイダンスを実施する。  ②-1 ハローワーク、全日制就職課と連携しながら定時制単独の求人を獲得すべく職場訪問を計画的に実施する。 ②-2 進路情報の必要な生徒に対し、個々のケースに応じた個別対応を実施する。 ③-1 個々の興味関心に応じた受講科目を設定し、	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 6/27に校内進路ガイダンス、11/15に校内進路出前授業(消費者教育と自動車整備体験)、1/10に鉄筋施工体験、帆布バッグ製作を実施した。 ①-2 全学年において、各学期ごとの担任の面談後に進路相談を受けた。また、全学年の生徒に対して進路別のガイダンスを実施した。 ②-1 ハローワーク鳴門、全日制就職課と連携し、個別に職場訪問を実施し、定時制単独の求人を獲得した。 ②-2 ハローワーク鳴門への訪問、求人情報の収集、情報交換を行い、卒業予定の生徒以外に対しても個別に支援を行った。 ③-1 総合的な学習の時間に外部講師を招き、ヨガ			

		<p>外部講師を活用した資格取得や技能向上を目指す。</p> <p>③-2 運転免許など、就職にも有利である各種資格取得を奨励する。</p> <p>④-1 読み書き計算といった基礎・基本的な学力の底上げを図る。</p> <p>④-2 3年次における進路意識の向上と学習意欲の拡大に努める。</p> <p>⑤ 各学校行事終了後、活動記録をHPに速やかにアップする。</p>	<p>教室、ウェイト・トレーニング教室、プログラミング教室、ギター教室を開講した。</p> <p>③-2 運転免許の積極的な取得を奨励した。また、鉄筋の技能検定3級相当の課題を体験することができた。</p> <p>④-1 出題方法を変更して2年目となる今年は、前年に比べて平均点が16.17上昇した</p> <p>④-2 定期面談以外で、担任等から生徒の進路相談に乗るなど対応した。</p> <p>⑤ 11月以降システムのトラブルにより画像が更新できない状態が続いたため更新が大幅に遅れた。</p>	<p>一方、昨年と同様に行事・活動記録をHPにアップするのが遅くなった点については改善が必要である。</p>	<p>用いる必要がある。</p> <p>次年度で、出題範囲の統一から3年目、評価方法の変更から2年目となるので、基礎学力コンペの効果を測定できるような評価方法を構築していきたい。</p>
<p>[主権者意識向上] 主権者意識を高める教育を推進する。</p>	<p>(全体レベル)</p> <p>主権者意識を高める教育を推進するため、公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の充実を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 自ら考え、自ら判断するための、基本的な事項を理解する。 [公民科]</p> <p>② 主権者意識を高めるために、授業内容、行事等の精選や、教育課程の作成を行う。 [教務課]</p> <p>③ HRの時間を活用し、主権者意識を高める活動や、学校行事を実施する。 [特別活動課]</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>① アンケートを実施し、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒 60%</p> <p>② 主権者教育に関する特別授業 1回</p> <p>③ 教職員対象の研修 1回</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>① 授業内容を基礎・基本的なものに精選するとともに、しっかりとした自分の考えを持ち、それを表現できるように努める。</p> <p>② 学校行事や教育課程の見直しを行い改善に努める。</p> <p>③-1 HRの時間に、グループでの話し合いなどを通じて、自分の意見や考えを他人に伝えられるように努める。</p> <p>③-2 外部講師の招聘など、専門家を活用しながら主権者意識の向上に努める。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>① 現代社会を実施している1年生のみ対象 60%</p> <p>② 1回</p> <p>③ 0回</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① 調査問題等に自分の意見や考えを述べる項目を作成し、単なる知識だけでなくそれを自分の言葉で表現できるように実施した。</p> <p>② 教育課程の改編に着手した。</p> <p>③-1, ③-2 今年度は、徳島大学の坂田大輔先生を招き、全学年に対して講義をして頂いた。講義の中では、隣人とのディスカッションなどを通じて、政治とは何か、選挙の意義について理解することができ、生徒の主権者意識の向上に役立った。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>主権者意識を高めるために、生徒に対する施策は、講演会や授業を通してある程度充実してきた。一方で、教員対象の主権者教育研修会が一度もできていないのが課題である。</p>	<p>選挙権年齢の引き下げ及び成人年齢の引き下げに伴い、高校教育の担う役割の重要性が高まってきているので、主権者として、消費者として自立した個人を確立することは非常に重要である。</p> <p>そうした意味においても、生徒に対する様々な取り組みは評価できるし、次年度も継続して取り組んで欲しい。</p> <p>主権者教育も今年度で3年目を迎え、授業の合間に主権者教育の講演会や消費者教育の講演会などを上手く挟み、一通りの形はできあがってきた。</p> <p>一方で、昨年度と同様に、教職員に対する研修会がなかなか実施できていないことが、次年度の課題である。</p>

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった